

「湊 貴司氏寄贈標本（徳島県産昆虫類）」から発見された ゴミアシナガサシガメの標本

鈴木佑弥・外村俊輔

[Yuya Suzuki, Shunsuke Tomura : Specimens of *Myiophanes tipulina* Reuter, 1881 (Hemiptera : Heteroptera : Reduviidae) found in the insect collection of Tokushima Prefecture donated by Mr. T. Minato]

Abstract : Two female specimens of the endangered assassin bug *Myiophanes tipulina* Reuter, 1881 (Hemiptera: Heteroptera: Reduviidae) were found in the insect collection of Tokushima Prefecture donated by Mr. T. Minato and deposited in the Tokushima Prefectural Museum. These specimens were collected at "Tsuda", Tokushima City in 1963. This represents the first specimen-based record of *M. tipulina* from Tokushima Prefecture.

Key words : assassin bug, endangered species, Insecta, Shikoku

はじめに

ゴミアシナガサシガメ *Myiophanes tipulina* Reuter, 1881 (カメムシ目: カメムシ亜目: サシガメ科) は、体長 16–17 mm 程度の比較的大型のサシガメであり、中脚および後脚が非常に細いため、一見するとガガンボ科 (ハエ目) の昆虫のように見える。体表には細かな毛が密生しており、微細な塵をまとっていることが多い (矢野ら, 2022)。

本種は、中国・台湾・韓国・日本・オーストラリア (China, 1926; Wygodzinsky, 1956, 1966; 石川・宮本, 2012; 石川, 2016; Wang & Rédei, 2022) に分布し、日本国内では本州・伊豆諸島 (三宅島)・佐渡島・四国・九州から記録されている (石川, 2016)。主に木造家屋とその周辺で採集されており、ススキに覆われた休耕田から得られた例もある (矢野ら, 2022)。広域的な分布域を示す一方で、近年における国内の採集記録は極めて乏しく、環境省レッドリスト 2020 では絶滅危惧 II 類 (VU) に (環境省, 2020)、全国各地の都道府県版レッドリストにおいて情報不足 (DD) ~ 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) に選定されており、大阪府では絶滅したとされている (大阪府, 2014)。

四国においては、香川県、高知県、愛媛県の 3 県で記録があり、各県のレッドリストではそれぞれ情報不足 (宇都宮, 2021)、絶滅危惧 I 類 (高井, 2018)、絶滅危惧 II 類 (VU) (菊原, 2014) に選定されている。これらのうち愛媛県では、2019 年から 2021 年にかけて複数の生体が相次いで発見さ

れ、その生態的知見が詳細に報告された (矢野ら, 2022)。一方、四国四県のうち、徳島県では本種の標本情報を伴う記録は存在せず、唯一、昭和 50 年に勝浦郡で実施された阿波学会総合学術調査の報告内にて、「勝浦川上・中流地方の昆虫」の目録に種名が挙がっているのみである (平井・敏謙, 1975)。また、本種は徳島県レッドリストには掲載されていない (徳島県, 2013)。

筆者らは、徳島県立博物館収蔵庫内に保管されている「湊 貴司氏寄贈標本 (徳島県産昆虫類)」を整理していたところ、ゴミアシナガサシガメの標本を 2 個体発見した。本報では、徳島県において見過ごされていた本種の記録として、その詳細を報告する。

標本について

「湊 貴司氏寄贈標本 (徳島県産昆虫類)」は、徳島市在住の昆虫愛好家であった湊 貴司氏が 1960 年代に県内で採集した標本群であり、コウチュウ目、チョウ目、カメムシ目など 2,579 点 (ドイツ箱 12 箱) を含む (Fig. 1A, B)。採集地の多くは徳島市内であり、ラベルに BIZAN (眉山)、SHINHAMA (新浜)、TSUDA (津田)、BEACH, TSUDA (津田海岸)、TSUDAYAMA (津田山) などと表記されたものが多い。湊氏のご子息によって 1996 年 7 月 27 日に当館に寄贈され、未登録の状態でご当館収蔵庫に保管されていた。

2025 年 11 月 28 日受付, 12 月 31 日受理.

徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島県徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園, Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-cho, Tokushima-shi, Tokushima 770-8070, Japan.



Fig. 1. A, Overview of the insect collection of Tokushima Prefecture donated by Mr. T. Minato. B, the label of the box where hemipteran specimens were deposited. C, the specimens of *Myiophanes tipulina*. Two specimens are distinguished by arrows with different numbers. D, the label of the specimen No. 1 (TKPM-I 13201). E, the label of the specimen No. 2 (TKPM-I 13227).

これらのうち、「半翅目」と表記された1箱の中に、ゴミアシナガサシガメ2点が収納されていた (Figs 1C-E, 2A, B). 完全な翅を有していることおよび腹部末端の形状から、いずれの個体も雌成虫であると判別された (Figs. 1C, 2A, B). 各個体のラベル情報は以下の通り.

1 雌 (TKPM-I 13201): 18.VII.1963 TSUDA Coll. T. MINATO (Fig. 1C 矢印 1),

1 雌 (TKPM-I 13227): 5.VII.1963 TSUDA-TOKUSHIMA Coll. T. MINATO (Figs. 1C 矢印 2; 2A, B)

考察

両個体が採集されたと考えられる徳島市津田地区は、新町川と勝浦川の河口域に挟まれた低地であり、標高 77.7 m の独立丘である津田山を擁する (Fig. 3). 現在、津田地区には西新浜町、新浜町、新浜本町、津田浜之町、津田西町、津田本町、津田町、津田海岸町の 8 町が属している. 前述のとおり、湊氏のラベルにおいては、新浜、津田、津田海岸、津田山などの地名が区別されていることから、本標本の産地である「津田」は、津田地区の中でも津田本町から

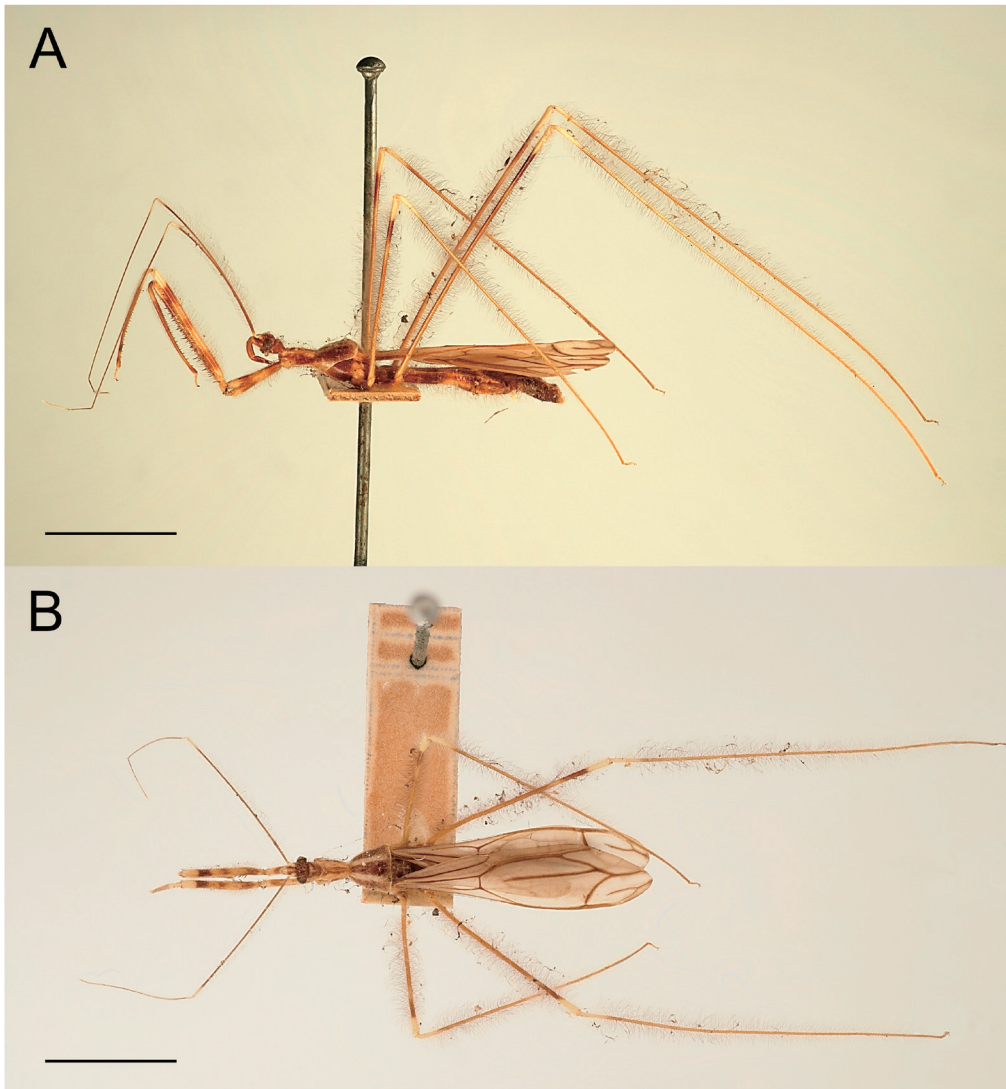


Fig. 2. Female specimen of *Myiophanes tipulina* collected in “Tsuda”, Tokushima Prefecture in 1963 (specimen No. 2, TKPM-I 13227). A, lateral view. B, dorsal view. Scale bars: 5.0 mm.

津田町にかけての市街地を指している可能性が高い。しかしながら、両個体が採集された具体的な環境（屋外か屋内か、屋内の場合は木造家屋か否か）については不明である。

当時の津田地区の自然環境や昆虫類の生息状況を記録した資料は限られる。昭和初期の津田地区を描いた地図（徳島市津田コミュニティ協議会, 2012）によれば、当時、同地区の大部分は農耕地であり、住宅地は北東部（現在の津田本町および津田町北部）に集中していた。また、東部沿岸域には広大な砂浜と松林が広がっていた。しかし、1960～80年代における木材工業団地の造成に伴い、同地域の景観は大きく様変わりした。1957（昭和32）年から1968（昭和43）年にかけて津田地区を含む徳島市内で採集された地表性甲虫類のリスト（河野, 1970）からも、当時の津田地区における団地・宅地化が昆虫類に与えた影響がうかがえる。

1945年の空襲により、津田地区を含む徳島市の家屋は、その大部分が消失している（徳島市津田コミュニティ協議会, 2012）。したがって、1960年代以降における津田地区や、同じく激しい空襲を受けた香川県高松市（高木, 2019）における本種の記録は、戦火を免れた個体群が、高度経済成長期中期頃までは平野部の住宅地にも広く分布していたことを示唆する。その後、高度経済成長期中期～後期における旧来の木造家屋から鉄骨造住宅への急速な転換によって、急速に駆逐されていったと考えるのが妥当だろう。現在、本種は徳島市街地では絶滅している可能性が高いが、寺社や蔵などの建造物の中に死骸や脱皮殻などの痕跡が残存している可能性もある。また、戦火や建て替えを免れた建築物の中で個体群が維持され、生存し続けている可能性も否定はできないため、今後さらなる調査が必要である。

近年、本種が採集された環境としては、山間部の古い木

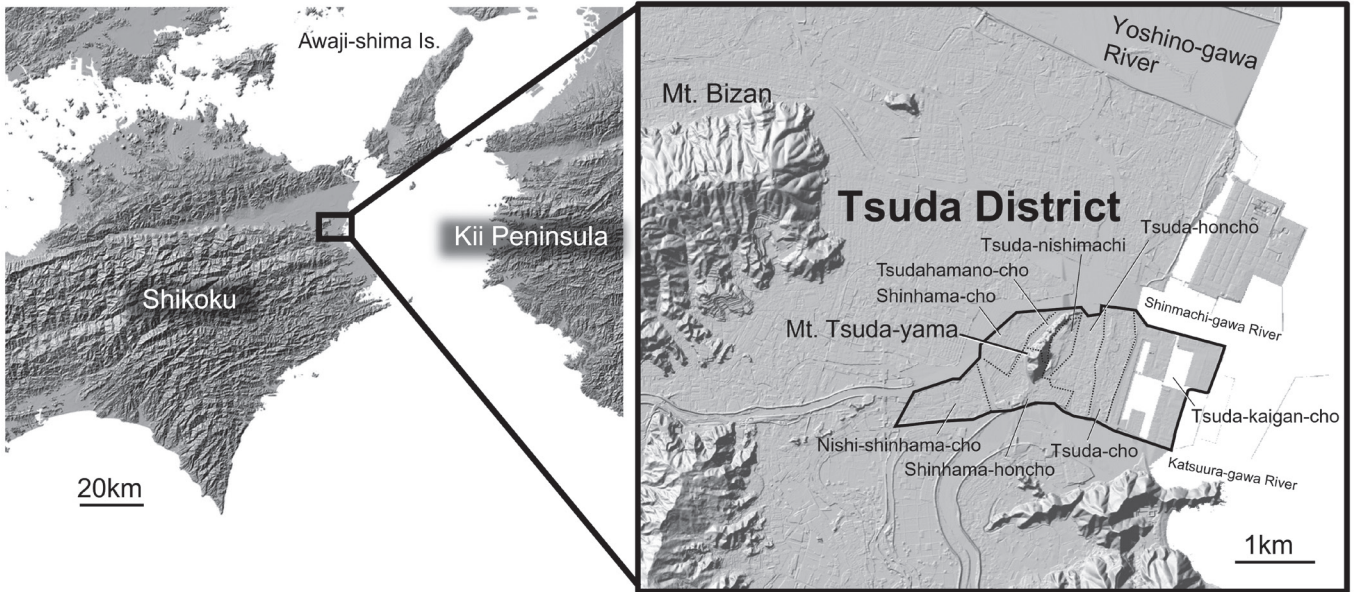


Fig. 3. Map showing Tsuda District in Tokushima Prefecture. The map was generated using map data from the Geospatial Information Authority of Japan (<https://maps.gsi.go.jp/>).

造家屋内とその周辺（矢野ら，2022）山間部の古民家の納屋（大松ら，2024），薄暗く湿った林内の農作業小屋やその周辺の材置き場（渡辺ら，2025），山間部の神社境内（井上・木原，2025）などが挙げられており，いずれも周囲を森林に囲まれた古い木造建築物という点で共通している。加えて，本種はクモ食性であることが示唆されており，上記の記録においても，同所的にオオヒメグモやヤマウズグモ，ユウレイグモ類などのクモが確認されている。これらのクモは徳島県内においてもありふれた種であり，山間部の集落では普通にみられる（鈴木ら，2025）。したがって，徳島県内でも同様の環境からの再発見が期待される。

謝辞

矢野真志氏（面河山岳博物館），野村拓志氏（アース製薬株式会社），大生唯統氏（鳥取県），香川周大氏（徳島県）からゴミアシナガサシガメの記録に関する情報および文献をご恵贈いただいた。また，大原賢二氏（佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンター）には湊 貴司氏寄贈標本の概要についてご教示いただいた。以上の方々に，この場を借りて厚く御礼申し上げる。

引用文献

- China, W. E. 1926. A note on the habits of *Myiophanes tipulina* Reuter (Reduviidae, Heteroptera). *Entomologist's Monthly Magazine*, (62) : 21–22.
- 平井雅男・敏鎌謙次. 1975. 勝浦川上・中流地方の昆虫. 総合学術調査報告 勝浦郡 郷土資料発表会紀要, (21): 29–46.
- 井上修吾・木原 昂. 2025. 福岡県におけるゴミアシナガサシガメの記録. *Pulex*, (104) : 1081–1083.
- 石川 忠・宮本正一. 2012. サシガメ科 Family Reduviidae Latreille, 1807 Assassin bugs. 石川 忠・安永智秀・高井幹夫編, 日本原色カメムシ図鑑—陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans — 第3巻, p. 231–288. 全国農村教育協会, 東京.
- 石川 忠. 2016. Family Reduviidae サシガメ科. 林 正美・友国雅章・吉澤和徳・石川 忠（日本昆虫目録編集委員会）編, 日本昆虫目録第4巻 準新翅類, p. 439–452. 日本昆虫学会.
- 河野仁一郎. 1970. 徳島市の生物環境について—博物学班（昆虫）— I 徳島市に分布する歩行虫. 総合学術調査報告 徳島 郷土資料発表会紀要, (15) : 29–40.
- 環境省. 2020. 環境省レッドリスト 2020. 昆虫類. https://ikilog.biodic.go.jp/rdbdata/files/redlist2020/redlist2020_kontyurui.csv (2025年11月18日閲覧)
- 菊原勇作. 2014. ゴミアシナガサシガメ. 愛媛県レッドデータブック改訂委員会編, 愛媛県レッドデータブック—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—, p. 157. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 松山.
- 大松勇司・錦織龍生・國生竜之介・林 成多. 2024. 島根

- 県東部におけるゴミアシナガサシガメの記録. すかしば, (71) : 28–29.
- 大阪府編. 2014. 大阪府レッドリスト 2014. 6. 各分類群及び分野のレッドリスト 昆虫, p. 14–20. 大阪府環境農林水産部みどり推進課, 大阪.
- 鈴木佑弥・日野佑飛・廣津敬也・辻 雄介・坂東治男. 2025. 文献および追加標本に基づく徳島県産クモ類目録. 徳島県立博物館研究報告, (35) : 1–84.
- 高井幹夫. 2018. ゴミアシナガサシガメ. 高知県レッドデータブック (動物編) 改訂事業改訂委員会編, 高知県レッドデータブック 2018 動物編, p. 174. 高知県林業振興・環境部 環境共生課, 高知.
- 高木真人. 2019. 香川県におけるゴミアシナガサシガメの採集記録. へりぐろ, (40) : 19.
- 徳島県. 2013. 徳島県版レッドリスト 昆虫類リスト<改訂 : 平成 25 年>. <https://www.pref.tokushima.lg.jp/file/attachment/463490.pdf> (2025 年 11 月 15 日閲覧)
- 徳島市津田コミュニティ協議会. 2012. 津田の歴史・史跡めぐり (徳島市「地域の力」まちづくり支援事業). 144 pp. 株式会社教育出版センター, 徳島.
- 宇都宮靖博. 2021. ゴミアシナガサシガメ. 特定非営利活動法人 みんなでつくる自然史博物館・香川編, 香川県レッドデータブック 香川県の希少野生生物. (6) 昆虫類, p. 319. 香川県環境森林部 みどり保全課, 高松.
- Wang, T.-W. and D. Rédei. 2022. First record of *Myiophanes tipulina* from Taiwan (Hemiptera: Heteroptera: Reduviidae). Folia Entomologica Hungarica Rovartani Közlemények, (83) : 101–108.
- 渡辺恭平・伴 光哲・嶋本習介. 2025. 絶滅危惧種ゴミアシナガサシガメ (半翅目, サシガメ科) の神奈川県からの再発見と, 若干の生態観察. 昆虫 (ニューシリーズ), 28 (4) : 140–143.
- Wygodzinsky, P. W. 1956: Synopsis of the Australian Emesinae (Hemiptera: Reduviidae). University of California Publications in Entomology, 11(4): 193–245.
- Wygodzinsky, P. W. 1966. A monograph of the Emesinae (Reduviidae, Hemiptera). Bulletin of the American Museum of Natural History, (133): 1–614.
- 矢野真志・野村拓志・大西 剛. 2022. 愛媛県で採集されたゴミアシナガサシガメの記録とクモ捕食の観察. 愛媛県総合科学博物館研究報告, (27) : 1–6.

